

日本ゼオン株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：石油化学 ● 事業概要：合成ゴム 合成樹脂 製造販売 ● 事業規模：売上高 2876億円、拠点数 本社 研究所 国内4工場、従業員数 連結3090名 単体1590名
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標 2020年に1990年比で20%削減 取り組みとして工場での燃料転換（A重油→B重油）と電力の再エネ化を推進、などに取り組んでいる。</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> Scope3についてはこれまで算定していなかったが 今回2016年度の活動量にて算定した。 算定結果として「購入した製品・サービス（カテゴリ1）」が全体の75%を占めていることがわかった。具体的な削減計画は2018年度に検討してゆく。</p>

日本ゼオン株式会社

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2・3の排出量の状況 (※割合は必須、グラフを挿入)	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : [493千tCO₂]								
	<table border="1"><caption>GHG Emissions by Scope</caption><thead><tr><th>Scope</th><th>Percentage</th></tr></thead><tbody><tr><td>SCOPE 1</td><td>48%</td></tr><tr><td>SCOPE 2</td><td>5%</td></tr><tr><td>SCOPE 3</td><td>47%</td></tr></tbody></table>	Scope	Percentage	SCOPE 1	48%	SCOPE 2	5%	SCOPE 3	47%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : [54千tCO₂]
	Scope	Percentage								
SCOPE 1	48%									
SCOPE 2	5%									
SCOPE 3	47%									
	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3 : [474千tCO₂]									

日本ゼオン株式会社

項目	内容																																
<p>4.気候変動によるリスクと機会の分析</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>リスク要因</th> <th>詳細</th> <th>推定される財務影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>規制によるリスク</td> <td>新規制に伴う不確実性</td> <td>排出規制が強化される</td> <td>収益悪化</td> </tr> <tr> <td>物理的影響によるリスク</td> <td>海面上昇</td> <td>工場浸水</td> <td>操業度の低下 操業中止</td> </tr> <tr> <td>その他のリスク</td> <td>風評被害</td> <td>化学工場は排ガスを出す</td> <td>操業度の低下 生産効率の悪化</td> </tr> <tr> <td>規制による機会</td> <td>大気汚染規制</td> <td>輸送機器の排ガス削減につながる省エネ素材の開発販売</td> <td>自動車の低燃費対応素材として注目されている</td> </tr> <tr> <td>物理的影響による機会</td> <td>物理的変化によってもたらされる自然環境の変化</td> <td>天然ゴム農園のダメージ</td> <td>合成ゴムの売上大幅増大</td> </tr> <tr> <td>その他の機会</td> <td>消費者行動の変化</td> <td>非石化燃料系自動車、輸送機器に使用される素材の開発</td> <td>特殊ゴムの2倍以上の事業規模を期待</td> </tr> </tbody> </table>		リスク要因	詳細	推定される財務影響	規制によるリスク	新規制に伴う不確実性	排出規制が強化される	収益悪化	物理的影響によるリスク	海面上昇	工場浸水	操業度の低下 操業中止	その他のリスク	風評被害	化学工場は排ガスを出す	操業度の低下 生産効率の悪化	規制による機会	大気汚染規制	輸送機器の排ガス削減につながる省エネ素材の開発販売	自動車の低燃費対応素材として注目されている	物理的影響による機会	物理的変化によってもたらされる自然環境の変化	天然ゴム農園のダメージ	合成ゴムの売上大幅増大	その他の機会	消費者行動の変化	非石化燃料系自動車、輸送機器に使用される素材の開発	特殊ゴムの2倍以上の事業規模を期待			
	リスク要因	詳細	推定される財務影響																														
規制によるリスク	新規制に伴う不確実性	排出規制が強化される	収益悪化																														
物理的影響によるリスク	海面上昇	工場浸水	操業度の低下 操業中止																														
その他のリスク	風評被害	化学工場は排ガスを出す	操業度の低下 生産効率の悪化																														
規制による機会	大気汚染規制	輸送機器の排ガス削減につながる省エネ素材の開発販売	自動車の低燃費対応素材として注目されている																														
物理的影響による機会	物理的変化によってもたらされる自然環境の変化	天然ゴム農園のダメージ	合成ゴムの売上大幅増大																														
その他の機会	消費者行動の変化	非石化燃料系自動車、輸送機器に使用される素材の開発	特殊ゴムの2倍以上の事業規模を期待																														
<p>5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の目標年は2020年である。2010年からの中期計画の最終段階になっている。2020以降についてはこれから議論して策定していくことになるため現状では白紙である。 ● 社会からの期待としてのCO₂排出削減は当然 社として認識しており その期待の大きさに応えるためにはかなり戦略的な取組が必要であることも認識している。 																																

日本ゼオン株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年以降の目標設定については現状 白紙であるが社内で議論になるポイントは以下の通りである。 ● Scope 1、2のエネルギーは石化燃料エネルギーに依存している。これを再生可能エネルギーに変更すればCO₂排出量はゼロとなる。特に自家発電の部分を再生可能エネルギーにすれば30%のCO₂排出量削減になる。 ● 目標設定にあたっては実現するための投資とその回収 コストパフォーマンス 利用の安定性 継続性などが議論になると考えられる。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会からの要請に対して対応するための社内の組織体制がひとつの課題となる。 ● 社会からの要請 特にサプライチェーンを通じた 顧客からの強い要請に遅滞なく対応するためには 今からエネルギー転換の準備 試行などを始める必要がある。